

夕

多田法眼↓源賢

泰演(七六—七三六)

神龜 三年

天平 八年

「律師。任日不見。法相宗。西大寺」(七)  
「入滅。正月四日」(七)

泰覺(二八五)

元曆 二年

「法橋。正月十三日。寺。老。山。卅五」(殘)

泰景(八三—八五)

承和 二年

少僧都。三月十一日任。東大寺。修行者。  
尾張国人。「不經律師歟」

七年

十年

大僧都。九月廿八日任。「七十七」  
僧正。十一月九日任。「八十」

嘉祥 四年

入滅。三月廿三日。「八十八」

泰舜(九四—九四九)

天慶 三年

權律師。十二月十四日任。真言宗。元興寺。右京人。藤氏。「六十四」

四年

十二月廿八日楠東寺別当。「六十五」

天曆 三年 入滅。十一月三日。「七十三」

泰信(〇六—一二)

延曆廿五年

少僧都。四月丙辰任。自大法師。不經律師。「大唐人」(抄)

弘仁 二年

(少僧都)

泰尋(二六—二四)

長寬 二年

「法橋」(抄)

泰清(二二—二五)

寿永 二年

「法眼。十月八日任法印。御幸賞。八幡。家留云号田中。慶清子」(殘)

元曆 二年

「法印」(殘)

泰渲(二九)

弘仁 十年

律師。在早部而不載此卷。可尋。

泰渲(四〇)

承和 七年

講師。法相宗。元興寺。

泰豐(九三)

承平 三年

堅者。次。

泰幽(九四)

天慶 四年

講師。三月廿五日宣。法相宗。元興寺。

〔〇十一〕

大乘房座主↓寛慶

大夫阿闍梨↓辨覺

醍醐座主↓勝覺

堪增↓湛增

湛意(二八三・二八四)

寿永 二年

三年 「法眼。熊野(残)」「西国下向了。可尋(残)」

湛快(×湛海)(二三八・二四二)

保延 四年 法橋。叙。熊野修理別当(裏書)。「二月

十二日叙。兩院御幸賞。長範讓。本宮

在庁。故法印長快子」(水)

七年 (法橋)(裏書)

×湛海↓湛快

湛久(七九五)

延暦十四年

「東大寺別当湛久君。治四年。後任律

湛顯(二八三・二八四)

寿永 二年 「法橋。熊野。湛増子」(残)

三年 「(法橋)」(残)

湛秀(二二二・二三三)

天永 三年 堅者。(四十六)(裏書)

永久 三年 南京講師。更改。得業。当年九月日蒙宣

旨。興福寺。法相宗。四十九歳。(澄

尋ノ替リ)。「九月十二日宣下」(水)

四年 四月廿五日大僧正寛信拝賀。前駆已講

四人ノ内(裏書)

保安 三年 「正月十五日死。已講」(水)

湛昭↓湛照

湛照(一昭)(九六六・九六七)

康保 三年 講師。去年十二月廿八日宣。法相宗。東

大寺。(五十九)

天延 二年 權律師。五月十一日任。已講勞。(寛鑒

僧都弟子)。「年六十七。臘四十四。故

權少僧都法蔵入室弟子。或云寛鑒律師

資。文時御弟云々。(湛昭)(水)

二年 律師。六月十六日転正。

天元 二年 「律師。十二月廿一日転」(水)

四年 權少僧都。十月廿二日任。〔七十四〕。〔廿

一日任。(次年以後權ナシ)〔水〕

永觀 二年 入滅。月日。〔七十五〕

永延 元年 卒。月日〔水〕

湛清(増)〔二八三二八四〕

寿永 二年 「法橋。熊野。播磨。(増清)〔殘〕

三年 「法橋)〔殘〕

湛晴(元号)

天徳 元年 堅者。

湛増(堪)〔二八三二八四〕

寿永 二年 「法眼。熊野。十相。湛快子)〔殘〕

三年 「法眼)。小松堪海子。十月別当補了

(堪増)〔殘〕

檀那院↓長算

檀那院後僧都↓仁暹

檀那贈僧正↓覺運

子

智惟↓智維

智維(一惟)〔九三一九四〕

延喜廿一年 堅者。(智惟)

天慶 七年 講師。五月廿六日宣。法相宗。興福寺。

〔七十二〕。(知維)

智印(元二二〇四)

天元 五年 堅者。〔四十八〕

寛弘 元年 講師。八月廿八日宣旨。法相宗。興福寺。

〔源氏。六十七〕。〔臘五十二。源氏。

堯時男)〔水〕

智運(元元)

延長 七年 堅者。次。

智淵(元六二七〇三)

文武 二年 少僧都。三月十八日任。不經律師。惠輪

僧正俗時子。薬師寺繡仏開眼。読師。

大僧都。十二月日転任。

(大僧都)

大宝 二年

「僧正。正月十五日任)〔七〕

「入滅。十二月日。法相宗。薬師寺)〔七〕

智洲(元五九三)

天曆 八年 權律師。三月十九日任。天台宗。延曆寺。

小野氏。(七七)

天德 二年 律師。十二月廿七日轉正。(七十四)

四年 權少僧都。八月九日任。(七十六)

応和 三年 入滅。十二月八日。(七十九。戒壇房)

智圓(六七)

天武 二年 僧正。鞍部氏。

智圓(〇四)

天喜 二年 「阿闍梨。七月廿一日被下宇治平等院

阿闍梨宣旨」抄

智海(二八二八五)

寿永 二年 「法眼。山。石井。八十一。六十七」

(殘)

元暦 二年 「少僧都。正月十三日上。八十三。

六十九」(殘)

智愷(九〇九三)

延喜 十年 講師。九年十月廿一日宣旨。花嚴宗。東

大寺。内藏氏。(長者中納言忠平宣)

十六年 權律師。四月五日任。已講勞。(七十五)

十八年 律師。二月廿四日轉正。(七十七)

延長 七年 入滅。八月八日。(八十八)

×智覺↓智賢

智賢(×智覺)(〇六七)

寛治 元年 堅者。辞退。

智算(〇三)

長保 五年 堅者。興。(長者殿依被參会任昇。追可

請補。卅五)

智實(二三〇)

大治 五年 「正月十四日僧事。内供。慶実讓(裏書)」

(水)

智證大師↓圓珍

智眞(〇〇一〇三)

寛弘 五年 研學。興。(卅六。勅使左少弁輔尹)

治安 三年 講師。去年十二月九日宣旨。法相宗。興

福寺。(六十一)。「去年十二月廿八日

宣。元定額」(水)

長元 六年 權律師。十二月廿二日任。已講勞。(七

十一)。「真喜僧正弟子。(裏書)奈良本

云。中算貴所弟子。住尊教院。本師峰

智威儀師〔水〕  
八年〔入滅。七月廿四日。七十三〕。〔九日卒〕

〔水〕

智仁↓觀修

智靜↓觀修

智濟〔六六〕

寬平 八年 堅者。

智濟〔〇〇〇〕

長保 四年 〔堅者。次〕

智禪〔二四〕

保延 六年 維摩会聴衆。菓師寺七人ノ内〔裏書〕

智藏〔六七〕

天皇武 二年 僧正。三月日任。吳国人。福領在俗時子也。

智尊〔〇六〕〔二四〕

治曆 四年 研学堅義。〔卅八〕〔裏書〕

寬治 七年 講師。興福寺。〔六十九〕

康和 四年 権律師。五月十三日任。三会勞。

天永 二年 〔権〕少僧都。五月日転任。〔八月廿七日任〕〔水〕

永久 二年 卒。二月五日。生年八十八。〔二日卒。生年九十三〕〔水〕

智通↓智遍

智遍〔一通〕〔六七〕

天皇武 二年 僧正。唐学生。湯坐氏。〔平城観音寺。此僧正建立。〔智通〕〕〔抄〕

智辨↓餘慶

智鳳〔七三〕

大宝 三年

〔法師。国史云。此年智鳳法師等依勅命渡海入唐。遇玄奘三藏。習法相大乘云々〕〔抄〕

智寶〔七六〕

慶雲 三年 維摩講師。

智明〔九二〕

延喜十八年 堅者。

竹林院座主↓陽生

筑紫僧都↓元眞

中圓(九五四)

正暦 五年

「今年依大僧正奏東寺置八人。阿闍梨  
定数最初也(裏書)」(水)

三年 七年

(水)  
書經師(裏書)  
(法橋)(裏書)

中算(忠算院)(九七一九)

康保 四年 堅者。興福寺。(勅使左中弁濟時)

安和 二年 死去。十月十九日。興福寺。生年四十二。

(忠算院)(裏書)

忠意↓忠伊  
忠因(二〇四)

長治 元年

始自八月一日御筆法花經御八講。聽  
衆。延暦寺(裏書)

仲胤(二三五)

保延 元年 天台講師。九月十九日宣旨。延暦寺。「二

会」(水)

忠雲(二八三二八五)

寿永 二年

「少僧都。上。法印。花山院。卅七。  
廿五冬。寿永元年二会」(殘)

仲繼(八六八四)

天長 三年 維摩講師。法相宗。元興寺。行基菩薩孫

弟子。勝虞弟子。

元暦 二年

「法印」。顯。十二月十五日。卅九。廿  
七」(殘)

九年 律師。正月十五日任。法相宗。薬師寺。

依宣旨移住本元興寺。

忠圓(二九一二四)

保延 五年

法橋。十月廿六日叙。円勝寺供養造仏  
賞。法眼賢円子(裏書)

承和 十年 入滅。四月廿二日。

忠伊(一意)(二二六二二四)

保延 二年 法橋。十月十五日叙。法金剛院御塔供養

賞。金泥一切經書写。仏師。(尋伊子)

(裏書)。「經師。三月廿三日叙。(忠意)」

忠縁(二三一二五)

天永 四年

法橋。正月十四日叙。(七十六)。東寺凡  
僧別当。「十一月廿六日叙。東寺造坊」

(法橋)(裏書)

(水)

永久 三年 卒。三月日。〔七十八〕。〔三月廿六日卒〕

(水)

忠惠(二八三—二八五)

正弟子。但補任中不見。

寿永 二年

〔法眼。興。花山院。廿三〕〔殘〕

元暦 二年

〔法眼〕。卅八。廿五〔殘〕

忠快(二八三—二八五)

寿永 二年

〔律師。山。左衛門督。廿二。八〕〔殘〕

元暦 二年

〔前律師。正月廿日流。中納言。廿四。十〕〔殘〕

忠玄(二八三—二八五)

寿永 二年

〔前律師。山。中納言。四十七。廿五〕〔殘〕

忠戒(二八四—二八五)

寛平 六年

權律師。八月十九日任。久修業。東大寺。

元暦 二年

〔五月五日卒。四十九。卅七〕〔殘〕

忠最(二八六)

仁和 四年

講師。法相宗。興福寺。

〔七十六〕

七年 入滅。六月廿八日。〔七十七〕

忠算院↓中算

忠覺(二八三—二八五)

天治 二年

賢者。〔廿八。大宰帥藤俊忠子〕〔裏書〕

保延 四年

十二月廿九日阿闍梨廿人宣旨ノ内。

忠壽(二八九)

寛仁 三年

賢者。興。〔卅九。勅使左中弁〕

忠春(二八九)

大治 四年

〔十二月廿九日僧事。阿闍梨宣旨十三人。山七人ノ内。□□院範慶讓。権

忠寛(二八九)

寿永 二年

〔野伏。三河〕〔殘〕

少僧都忠尋解文〔裏書〕〔水〕

忠惠(二八九)

宝龜 五年

律師。任。東大寺別当。治四年。良弁僧

忠常(二九〇)

延喜 十年 賢者。

忠眞(一八三)

寿永 二年

「内供奉。延曆寺四人ノ内。円雲讓。成雅卿息。顕真同宿。或本真願云々」  
(残)

忠尋(二四一・二八)

長治 元年

始自八月一日御筆法花經御八講。聴衆。延曆寺(裏書)

天仁 二年

天台講師。山。「二会。十月五日宣旨。天台宗。土佐守源忠基子」(水)

元永 元年

権律師。十月七日任。五十四歳。院熊野御経供養賞。「師主故延曆寺座主覺尋。御経供養賞。閏九月廿二日院熊野御参詣一切

(裏書)閏九月廿二日院熊野御参詣一切経供養導師忠尋已講師兼宣旨。同十月四日御還向。七日宣下任律師。第二已講」(水)

二年

「十一月晦日蒙探題宣旨。永清辞退替。即法成寺探題勤之。円宗寺同前」(水)

保安 元年

十二月卅日補勝蓮花院別当。「五月廿日長者宣。為西塔観音堂別当。真尊替。十二月卅日被行僧事。勝蓮華院檢校(裏書)」(水)

三年 辞退。十一月日。

四年 辞退。

五年 権少僧都。正月十四日転任。北已講勞。

「二会勞」(水)

天治 二年

「明源不経最勝一会。為疱瘡逝去事。仍最勝会五箇日之間以五人講師勤之。忠尋(裏書)」(水)

大治 三年

「十月廿二日於石清水宝前被供養一切経。唄(裏書)」(水)

四年

九月十九日補北野別当。「生年六十五。(裏書)三月十九日証菩提院供養。導師」(水)

五年

権大僧都。四月廿八日任。北野行幸賞。法印。十一月四日兼叙。日吉行幸賞。

十二月廿九日補天台座主。「十月四日延曆寺惣持院供養。導師。十月廿五日法金剛院供養。持金剛衆(裏書)」(水)

天承 元年

「最勝寺灌頂。大阿闍梨」(水) 権僧正。七月八日依大衆訴任。「六十八」。

二年

「七月廿八日任。尊勝寺灌頂。大阿闍梨。(裏書)二月廿八日法成寺御塔供養。



導師。三月十三日得長寿院供養。導師。  
十月七日宝莊嚴院供養。導師〔水〕

長承 二年

「尊勝寺灌頂。大阿闍梨〔水〕

四年

「最勝寺灌頂。大阿闍梨〔水〕

保延 元年

僧正。九月廿二日軼。〔七十二〕

二年

五月日補任法務。五月廿八日補法務。  
尊勝寺灌頂。大阿闍梨〔水〕

三年

大僧正。正月十四日軼任。〔歲七十三〕。  
〔裏書〕二月十七日法勝寺金泥一切經供

養。導師。〔八月廿九日辞法務。讓行玄  
法印。尊勝寺灌頂。大阿闍梨〔水〕

四年

辞。十月日。

入滅。十月十四日。〔生年七十四〕

忠成〔二八三—二八五〕

寿永 二年

「法橋。寺。三河。六十六。五十五〔殘〕

元暦 二年

「〔法橋〕。里。六十八。五十七〔殘〕

忠清〔九八—九九〕

永祚 元年

堅者。〔二人始〕

忠尊〔二〇六—二二六〕

永保 元年

堅者。〔廿四〕〔裏書〕

康和 四年

講師。興福寺。〔六十五。勅使右少弁俊  
信〕

永久 四年

權律師。五月廿三日任。南已講勞。  
卒。八月日。〔三会勞。七月廿六日卒〕

〔水〕

忠範〔二〇六—二〇九〕

治暦 二年

堅者。〔四十八〕

寛治 六年

講師。辞退。〔山階〕。〔寛信二替ル〕

忠分〔二七—二八〕

宝龜 九年

少僧都。律師・僧都任不詳。只或本注少  
僧都。

忠明〔二〇四—二〇五〕

長久 二年

法橋。二月廿五日叙。天台宗。千手院。

内供讓禪範。〔五十六〕

天喜 二年

入滅。三月一日。〔六十九〕

忠祐〔二二四—二二五〕

長寛 二年

「〔法橋〕〔抄〕

忠祐〔二二六—二二七〕

寿永 二年

「〔法橋。寺。筑前。七十一。五十九〕〔殘〕

元暦 二年

「〔法橋〕。里。七十三。六十一〔殘〕

忠譽(九六)

安和 二年 堅者。次。

長意(八九・九〇)

昌泰 二年 法橋。

十月十八日拜天台座主。治七年。

延喜 六年 入滅。七月三日。

長叙(九四)

天曆 元年 堅者。次。

長宴(一〇四・一〇五)

天喜 二年 「阿闍梨。七月廿一日被下宇治平等院

阿闍梨宣旨四人ノ内」抄

治曆 元年 權律師。十二月卅日任。天台宗。延曆寺。

(五十一)

延久 元年 (大原)

承保 三年 權少僧都。十二月十九日任。

永保 元年 卒。四月日。

長圓(二〇七・二〇八)

嘉承 二年 「法橋。仏」(水)

元永 元年 「法眼。最勝寺造仏賞」(水)

大治 四年 「十一月晦日補清水寺別当」(水)

天承 元年 法眼。仏師(裏書)

長承 元年 法印。十月七日叙。法莊嚴院御造仏賞。

(裏書)

保延 二年 清水寺別当(裏書)

(法印)(裏書)

長緣(一〇六)

康平 五年 講師。八月九日宣。東大寺。三論宗。(七

十二)。後二会不遂死去了。仍以長昭律師為講師。

長賀(一二三・一二五)

寿永 二年 「威儀師。仁。青葉。七十四。五十四。

已役」(殘)

元曆 二年 「威儀師。常葉。六十六。五十六」(殘)

長快↓長懷

長懷(一快)(一〇六・一二三)

応徳 三年 堅者。(六十)(裏書)

寛治 四年 法橋。月日叙。太上皇王御幸賞。熊野別

当。(元)大法師(裏書)

長治 二年 (長快)(裏書)

永久 四年 「法眼。十一月十一日叙。太上法皇御

熊野詣賞〔水〕

五年

「法印。十一月六日叙。太上天皇御熊

野詣御堂供養賞〔水〕

保安 二年

法印。（コノ年法印トアリ）。〔長快（裏書）

三年

「月日卒」〔水〕

長覺（〇七四—一〇四）

承保 元年

法橋。十二月廿七日叙。右少弁高階積善

子。

三年

法眼。十二月十九日叙。

永保 四年

（權）少僧都。十二月廿七日任。

二年

致辭。正月日。

三年

辞退。

応徳 元年

卒。五月三日。

長覺（〇六十一—一〇六）

寛治 二年

法眼。十二月廿九日叙。平等院一院御幸

賞。大僧正讓。（内大臣能長息。母左

近少将□定季女）

康和 二年

權少僧都。十二月廿九日任。御修法勞。

長治 二年

權大僧都。五月廿九日転大。

嘉承 元年

卒。十二月卅日。（五十九）

長覺（一二三—一二五）

寿永 二年

「法眼。寺。非職也。十三。三」〔殘〕

元暦 二年

「〔法眼〕。太政大臣。密。十五。五」〔殘〕

×長覺↓長譽

長嚴（〇九三）

寛治 七年

堅者。〔越中守俊成子。常陸守為信女。

卅七〕〔裏書〕。（三）会定一記』等長嚴

長基↓眞願

長橋（元英）

天曆 十年

堅者。興福寺。〔勅使權左中弁頼忠〕

長訓（三八五）

天長 九年

御齋会講師。

十年

維摩講師。

承和 六年

律師。三月乙未日任。法相宗。興福寺。

玄憐僧都弟子。近江国志賀郡人。錦

氏。（生年六十六）

十四年

少僧都。十二月二日任。

仁寿 元年

大僧都。七月七日任。〔七十八〕

三年

僧正。十月壬午任。（八十）

齊衡 二年 入滅。九月廿二日。(八十二)

長惠(二〇一八六)

弘仁 元年 律師。九月甲寅日任。律宗。

七年 少僧都。五月十日任。

十四年 大僧都。十二月三日任。

天長 三年 入滅。月日。

長惠(二二二八五)

寿永 二年 「法橋。興。三位。五十一。卅六」(殘)

元暦 二年 「法橋」。五十三。卅八冬」(殘)

長慶(二〇二一〇三)

治安 元年 堅者。興。(卅四)

永承 七年 講師。九月十三日宣旨。法相宗。興福寺。

「六十七」。(松朝辭退ノ替リ)

長慶(二一三)

寿永 二年 「内供奉。園城寺四人ノ内。教長入道

息。鳥羽宮同宿」(殘)

長兼(二三二二四)

保延 三年 法橋。月日叙。別当長範讓。(元)大法師

「裏書」。「十一月二日叙。權別当熊野

御幸賞。故法印長快子」(水  
(法橋)。熊野(裏書)

長賢(二二一七〇)

貞觀 三年 講師。三論宗。法隆寺。

十一年 權律師。正月廿七日任。

十二年 入滅。九月十五日。

長憲(一〇〇一〇八)

康和 二年 堅者。(卅六)。前参川守藤長明子。依重

服今年不遂」(裏書)

三年 堅者。(卅四)(裏書)

長治 元年 始自八月一日御筆法花經御八講。聴衆。

興福寺(裏書)

長源(七二)

貞觀十三年 講師。法相宗。元興寺。

長嚴(二二二二八)

寿永 二年 「威儀師。仁。被常葉。卅九。廿五。

未役」(殘)

元暦 二年 「威儀師」。新常葉。四十一。イ三。廿

七冬。イ廿三」(殘)

長幸(二二二二八)

保延 四年

十二月廿八日阿闍梨廿人宣旨ノ内。金

剛院御室挙(裏書)

長寛 二年

「權律師」(抄)。(前条ト同一人カ)

長谷僧正↓觀修

長算(九四)

正暦 五年

「今年依大僧正奏東寺置八人。阿闍梨  
定数最初也(裏書)」(水)

長算(檀那院)(四一〇七)

長久 二年

權律師。二月廿二日任。北野行幸賞。天

台宗。延暦寺。〔五十〕。少納言從四位

上藤朝典子。母筑前守兼清女。懷壽僧

都入室)

永承 三年

十二月廿二日補慈德寺別當。〔五十六〕

五年

權少僧都。十二月卅日転任。〔五十八〕

天喜 二年

五月廿九日補法興院別當。〔六十二〕

三年

權大僧都。六月十六日転。〔六十三〕

辞退。十一月日依病辞退了。

五年

〔入滅。九月三日。六十〕。前大僧都。

〔六月三日入滅。九条殿孫。朝範子。

号檀那院□。覺運入室〕抄)

長實(二三)

大治 五年

「十二月廿九日僧事。阿闍梨(裏書)」(水)

長守(元元六)

天慶 二年

堅者。

応和 元年

講師。三月十八日宣。法相宗。興福寺。

其後死去了。改請安進。

長守(四六〇六)

永承 三年

權律師。十二月廿六日任。天台宗。千手

院。御持僧勞。〔五十七〕。摂津守從四

位下藤典雅三男。民部卿文範孫。觀修

大僧都入室)

天喜 二年

權少僧都。五月廿九日転。〔六十三〕。八

月十一日長谷寺供養。読師。少僧都。

三年

權大僧都。十二月廿八日。御持僧勞。長

算辞退替任之。〔六十四〕

康平 八年

權僧正。十二月卅日転任。依御持僧勞。

越上藤被任。〔七十四〕

治暦 二年

辞表。正月十二日被申慶賀了。同夜被奉

辞表了。〔七十五〕

四年

入滅。六月廿六日。〔七十七〕。前權僧正。

長順(二三一二三四)

天承 元年 法橋。仏師(裏書)

長承 元年

法眼。十月七日叙法印。<sup>(マ)</sup>法莊嚴寺御仏賞(裏書)

三年

卒。正月廿三日(裏書)。正月廿九日死(水)

長昭(一〇三)

長元 四年 堅者。法。

長昭(一〇九一〇三)

長曆 三年 堅者。美乃守頼明子。母豪雅女。(廿二)

永承 六年 講師。法相宗。興福寺。(卅四)

康平 五年 権律師。五月十八日任。已講勞。(四十

五)。二会講師。(長縁死去ノ替リ)

治暦 二年 権少僧都。十二月廿九日転任。(四十九)

三年 閏正月十七日補興福寺権別当。(五十)

延久 元年 (山階権別当)。

二年 権大僧都。八月廿二日任。春日行幸賞。

権別当勞。

五年 (権大僧都)

長燭(九六九七九)

康保 五年 権律師。三月十一日任。天台宗。延暦寺。

出羽国人。(六十八)

天延 二年 律師。五月十一日転正。(七十四)。「五

日転(水)

貞元 元年 入滅。月日。〔〇〇六〕

天元 二年 「卒。月日。七十九」(水)

長心(二三)

保延 四年 十二月廿九日阿闍梨廿人宣旨ノ内。

延暦寺座主権僧正行玄挙(裏書)

長信(一〇五二一〇五)

永承 五年 権少僧都。十二月卅日任。真言宗。仁和

寺。不経律師。入道大相国道長息男。

(卅六)

天喜 三年 権大僧都。六月十六日転任。(四十二)

治暦 元年 十月日蒙法務宣。(五十一)

二年 権僧正。正月十四日転任。御齋会御修法

結願之夜。御加持之次蒙宣旨。(五十

二)

延久 二年 僧正。五月九日転正。

三年 賜封戸七十五烟。円宗寺別当勞。

四年 入滅。九月卅日。

長眞(二八三-二八五)

寿永 二年 「法眼。山。左衛門督。四十。廿八」

(殘)

元暦 二年 「法眼」。密。四十二。卅「(殘)

長尋(二〇六)

嘉承 元年 堅者。「六十九」(裏書)

長勢(二〇六-二〇六)

治暦 元年 法橋。十月八日叙。法成寺金堂仏造立

賞。大仏師(裏書)

四年 法眼。月日叙。御願寺造仏賞。

長濟(二〇九-二〇九)

延久 元年 講師。五月八日宣旨。三論宗。東大寺。

〔讃岐守藤家経息。四十六〕

承暦 四年 権律師。五月日任。三会已講勞。

永保 二年 卒。四月日。

長運(二三五)

保延 元年 五月廿四日僧事次。阿闍梨五人宣下ノ

内。積善寺(裏書)

長運(二八三-二八五)

寿永 二年 「法橋。仁。越後。五十九。四十四」

(殘)

元暦 二年 「(法橋)。里。六十一。四十八」(殘)

長尊(二〇四-二〇四)

寛治 八年 堅者。「五十五。延寛依母服不勤替」(裏書)

天永 二年 南京講師。興。「七十二」。「三会。法相

宗。八月八日宣旨。年七十三。不遂後二

長尊(二六四)

長寛 二年 「法橋」(抄)

長尊(二八三-二八四)

寿永 二年 「法橋。仁。摂津。八十一。六十八」

(殘)

三年 「七月廿一日卒。里。八十二。六十九」

(殘)

長珍(九四)

天暦 二年 堅者。次。

長範(二〇六-二〇六)

寛仁 四年 堅者。東。法相宗。

寛徳 元年 講師。東大寺。〔五十四〕

天喜 三年 権律師。六月十六日任。已講勞。〔六十

七〕

四年 〔入滅。十二月廿八日。六十八〕

長範〔三三二四〕

天治 二年 法橋。十一月廿三日叙。熊野別当〔裏書〕。

〔三院御熊野詣賞〕〔水〕

大治 三年 〔法眼。三月日叙。三院御熊野詣賞。

彼山別当〕〔水〕

五年 〔十二月廿九日任法印。御院熊野詣賞〕

〔水〕

天承 元年 法印。三月日蒙那智別当宣〔裏書〕

保延 四年 〔五十〕〔水〕

七年 死去。正月廿一日。〔生年〕

長尾宮↓聖惠

長保〔一〇〇一〇三三〕

長保 二年 堅者。〔四十六〕

治安 二年 講師。去年十月廿七日宣旨。法相宗。興

福寺。〔六十八〕。〔安秀資。藤原氏〕

〔水〕

長元 四年 権律師。十二月廿六日任。已講勞。〔七

十七〕

七年 〔入滅。十一月廿八日。八十〕

長有〔二三〕

長承 三年 堅者。〔四十五〕〔裏書〕

長勇〔五智院僧都・法海房僧都〕〔六六九六〕

安和 元年 権律師。三月十一日任。天台。延暦寺。

内供勞。尊意贈僧正弟子。〔六十四〕

二年 律師。六月五日転正。〔六十五〕

貞元 二年 〔十月廿八日任法性寺座主〕〔水〕

天元 二年 権少僧都。十二月廿一日転任。〔七十五〕。

〔廿二日任〕〔水〕

三年 〔今年卒。五智院僧都。号法海房僧都〕

〔水〕

五年 入滅。月日。〔七十八〕

長譽〔\*長覺〕〔〇六九一一〇四〕

寛治 三年 堅者。四十五〔裏書〕

長治 元年 講師。興。法。〔六十一〕

長耀〔一六四〕

長寛 二年 〔法橋〕〔抄〕



長隆(九八一九四)

天元 四年 講師。五月十四日宣。(六十六)。三論宗。

東大寺。

永祚 元年 權律師。十二月廿七日任。已講勞。(七十五)。「年七十四。臘五十二」(水)

正曆 五年 入滅。月日。「七十」(水)

長朗(六六八九)

貞觀 十年 講師。花嚴宗。兼法相宗。菓師寺。平城京人。上野氏。

十六年 權律師。十二月廿九日任。花嚴宗。菓師寺。已講勞。(仲繼律師写瓶弟子)。

(七十一)

元慶 三年 入滅。三月三日。(七十七)

朝圓(一二〇)

大治 五年 「五月十三日僧事。阿闍梨宣旨。円宗寺慶耀替。公伊権大僧都解文(裏書)」

(水)

朝圓(二八三二八五)

寿永 二年 「法橋。仏師。木。明円子」(殘)

元暦 二年 「(法橋)。明円一子」(殘)

朝快(一二五)

保延 元年 九月廿二日僧事次。阿闍梨。中宮(裏書)

朝懷(二〇一三〇)

長保 三年 堅者。興福寺。(四十二)

長元 三年 講師。法相宗。(七十)。「四月廿七日宣旨。八月十一日請。或本六月廿日宣旨」

(水)

朝鑒(九三九九)

永觀 元年 「任別当。凡僧(裏書)」(水)

長徳 元年 「法橋。十月廿一日叙。行幸賞。今年十月七日補八幡別当。寺務三年」(水)

四年 「正月廿一日辞退。寺務三年。八月廿八日入滅」(水)

朝觀(九〇九)

延喜 九年 堅者。次。

朝久(二〇五)

万寿 二年 堅者。(五十六。勅使重尹)

朝賢(二八三二八五)

寿永 二年 「法橋。寺。玄能房。八十三。七十」(殘)

元曆 二年

「三月五日卒。八十五。七十二」(殘)

朝源(九四一—一〇五〇)

正曆 五年

「今年依大僧正奏東寺置八人。阿闍梨定数最初也」(裏書)「(水)

万寿 四年

權律師。三月十五日任。内供勞。真言宗。從三位遠度二男。「東大寺。三月十日任。東宮御瘡病加持賞。年五十三。大僧正深覺弟子。朝壽律師入室弟子。長保三年月日補東寺入寺僧。依雅慶奏為阿闍梨」(水)

長元 四年

律師。十二月廿六日轉正。「(五十七)

八年

權少僧都。十二月廿六日轉任。「(六十一)

「六十」(水)

永承 五年

「入滅。五月日。七十六」

朝壽(1011—1019)

寛弘 八年

權律師。四月廿七日任。真言宗。東寺。内供勞。「右兵衛督忠君子」。「仁和寺。年五十三。臘四十。九条殿孫。故大僧正寛朝入室弟子。正曆三年十一月日補東寺入寺僧信辭退替。長保二年八月卅日補内供奉十禪師」(水)

寛仁 元年

「入滅。五月廿八日」。「(五十二)」(水)

朝壽(1014—)

長和 三年

「堅者。卅八。或說」

朝壽(1033—)

長久 四年

講師。法相。興福寺。辭退了。

朝心(1126—1129)

天治 三年

權律師。正月十三日任。座主讓。日吉御幸賞。「天台宗。延曆寺。依為受法師也」(水)

大治 六年

「權律師」。「(七十二)

長承 二年

辭退。十二月日。「(七十一)

保延 二年

前律師。山。「(七十四)

五年 「(前律師)

朝眞(1035—)

嘉保 二年

堅者。「(五十七)」(裏書)

朝晴(971—1014)

長徳 三年

堅者。

長和 三年

講師。三月廿五日宣旨。東大寺。三論宗。「(五十七)

朝範(1051-1054)

承保 三年 律師。十二月十九日任。金剛樹院供養賞。

覺尋法印讓。〔周防守平棟仲子。四十  
七〕。(權ナシ)

承曆 二年 卒。五月七日。〔五十六〕

朝豐(913)

延喜十三年 堅者。次。

喬然(947-1013)

寛和 三年 〔法橋。三月十一日叙。三論宗。東大  
寺。或本〔水〕

寛弘 九年 〔卒。三月十六日。或本五年卒〔水〕

澄雲(1131-1185)

寿永 二年 〔法眼。山。周防。七十六〔殘〕

三年 〔法印。九月廿六日。同十七日兼宣旨。  
日吉杜仁王会御勸賞。七十七〔殘〕

元曆 二年 〔法印〕。里。七十八。五十四〔殘〕

澄圓(1011-1049)

寛弘 八年 堅者。興。〔卅五〕

長元 二年 講師。六月廿七日宣旨。法相宗。興福寺。

〔五十三〕。〔廿三日宣旨。明久律師資。

藤氏。大和国人〔水〕

長曆 二年 權律師。六月十八日任。已講勞。〔六十  
二〕

永承 四年 〔入滅。四月廿一日。七十二〕。金峯山檢  
校。

澄海(1100)

保延 六年 堅者。寺分。〔六十〕。第五日朝座〔裏書〕

澄觀(證)(1061-1137)

寛治 二年 講師。園城寺。〔廿二。左大臣源俊房男。  
母美乃守源実基女〕

嘉保 二年 權律師。十二月廿八日任。二会勞。〔廿  
九〕

康和 元年 權少僧都。十一月廿七日転任。院御幸白  
川。法務。造御願堂賞。權僧正讓。

長治 元年 十二月十四日蒙円宗寺探題宣旨。〔卅  
八〕

始自八月一日。御筆法花經御八講。講  
師八人ノ内〔裏書〕

二年 權大僧都。閏二月十七日転大。

永久 六年 十二月十七日。最勝寺供養。引頭〔裏書〕  
保安 二年 〔權大僧都。五十六〔抄〕

天治 三年 辞退。

大治 二年 五月日坐事被擯出京洛了。「六月日。

六十一」(水)

四年 六月日被召返。「六月廿六日恩免帰京」

(水)

天承 二年 最勝講々師。五月七日被定下。「五月

廿三日。六十六。(裏書)十月七日宝莊

嚴院供養。唄」(水)

長承 三年 法印。二月十四日叙。兩院熊野御幸御經

供養導師賞。「元前大僧都。六十八」

(水)

保延 三年 入滅。二月十一日。(生年七十二)。「二月

十七日卒」(水)

澄惠(八三四)

承和 元年 任興福寺別當。治三年(裏書)

澄憲(二六四)

長寛 二年 「權律師。蓮華王院供養上座賞。静憲

讓。但被止二会巡」(抄)

澄憲(二八三二八五)

寿永 二年 「前大僧都。七月一日任法印。山。少

元暦 二年 「(法印)。顕。六十。四十八」(殘)

澄嚴(二三〇)

保延 四年 堅者。辞退。(兼祐ニ替ル)(裏書)

澄豪(二三一二三)

永久 元年 天台講師。山。「二会。十月十九日宣。

天台宗。延暦寺。年六十四」(水)

大治 四年 權律師。十月廿八日任。北已講勞。延暦

寺。「八十一」。(二会勞)(水)

五年 辞退。「十月四日延暦寺惣持院供養。唄。

權律師(裏書)」(水)

長承 二年 卒。八月廿一日。(八十五)。前律師。

澄昭(二〇七)

承暦 二年 講師。五月十四日宣。法相宗。興福寺。

年(六十五)。院範辞退ノ替リ)。(三会定

一記)等澄照)

澄心(九六七一〇四)

康保 四年 「堅者。東」

長徳 二年 講師。元年十一月廿八日宣旨。三論宗。東

大寺。(五十八)。「伊賀國人。佐伯氏」(水)

長保 五年 權律師。十二月廿九日任。已講勞。〔觀

理大僧都入室。六十五〕。〔卅日任〕〔水

寬弘 四年 講師。第四日〔朝座〕。〔清春受病ノ替リ〕

七年 權少僧都。八月廿一日転任。

八年 少僧都。四月廿七日転正。〔七十三〕

長和 三年 〔入滅。二月十五日。七十六〕

澄心↓澄尋

澄眞〔梅桃惡法眼〕〔〇九一〇九六〕

寛治 五年 法眼。二月十一日叙。日吉院御幸賞。閑

白男。座主讓。〔廿三。母永実僧都同〕

嘉保 三年 死去。六月日。字梅桃惡法眼。

澄仁〔流罪法眼〕〔〇九一二二〇〕

寛治 五年 法眼。三月八日叙。日吉行幸賞。座主良

真讓。九条殿太政大臣子。母美作守源

資定女。〔廿六〕

天永 三年 流罪。

永久 六年 卒去。月日。流罪法眼〔裏書〕

澄尋〔一心〕〔〇九一二二五〕

寛治 五年 堅者。五十九〔裏書〕

永久 三年 南京講師。辞退。得業。蒙宣旨已為三ヶ

日之辞退。〔湛秀ニ替ル〕。三會。八月廿六日宣下。同辞退。〔澄心〕〔水〕

澄暹〔〇八〇〕

寛治 二年 堅者。死欠。〔勝秀ニ替ル〕

澄禪〔〇五九〕

康平 二年 堅者。〔卅二〕

澄範〔證一〕〔〇九六一〇九七〕

承保 三年 堅者。〔六十三〕〔裏書〕

寛治 元年 講師。辞退。〔行賢ニ替ル〕。〔證範〕

澄蓮↓證蓮

珍賀〔二八一二八五〕

寿永 二年 〔大威儀師。興。清水。五十五。四十

五。十一出。已役〕〔殘〕

〔法橋。大進〕〔殘〕

〔法橋〕。里。大夫。五十七。四十七〔殘〕

珍俊〔二八一二八五〕

寿永 二年 〔法橋。興。伊与。廿六。十六〕〔殘〕

元暦 二年 〔法橋〕。里。廿八。十八〔殘〕

珍耀〔二八一二八四〕

寿永 二年

「法橋」(殘)

三年

「興。兵部。里。五月日卒。卅七。廿

六」(殘)

鎮算(九五)

天曆 九年 堅者。次。

鎮朝(辻座主)(六八・九四)

天曆 二年 権律師。十月十九日任。天台宗。延曆寺。

長意法橋弟子。左京人。橋氏。(六十

□)

八年

権少僧都。三月十九日任。(七十一)

天德 二年

少僧都。正月十七日転正。(七十五)

応和 元年

大僧都。十二月廿八日転任。(六十八)

康保 元年

三月九日補天台座主。

入滅。十月五日。辻座主。(八十一)

ツ

辻座主↓鎮朝

テ

定因(二四)

康治 元年

五月五日太上天皇並禪定殿下於東大寺

定雲(二八・二八)

寿永 二年

「法眼。上了。少僧都。十月十四日。

元曆 二年

山。中院。卅五。廿六」(殘)

定圓(〇二・二三)

永保 二年

承德 三年

長治 元年

天永 二年

四年

四年

四年

四年

四年

権律師。三月日任。春日行幸賞。権僧正

讓。(五十四)

権少僧都。正月十七日転。南已講勞。

「正月十四日任。三会勞」(水)

「三月辭職。五月被帰之」(水)

大僧正覺信拝賀。四月廿五日。車御前

御受戒。大十師。超提寺(裏書)

「法眼。上了。少僧都。十月十四日。

山。中院。卅五。廿六」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

「(法眼)。密。卅七。廿八」(殘)

四人ノ内(裏書)。「三月六日春日御塔供

養。無權別當之慶。供僧三口被補之

(裏書)〔水〕

「元興寺別當。(裏書)八月七日長者宣。

為喜多院々主。法印永縁讓〔水〕

十月四日補興福寺權別當。「十月六日

或本四日補。(裏書)十月廿八日春日行

幸賞。定円追可有賞無。大僧都欠之故

歟。社司六人各賜一階〔水〕

四年 卒。十二月七日。〔生年六十六〕

定圓(一〇九一—一〇九六)

嘉保 二年 權律師。十二月廿八日任。御修法勞。(六

十)

三年 逝去。四月日。肩□云々。

定圓(一一三十一—一一三五)

寿永 二年 「法橋。醍。少輔。卅九。廿八」(殘)

元暦 二年 「(法橋)。四十一。廿五」(殘)

定賀(一一三〇)

大治 五年 「五月十三日僧事。阿闍梨宣旨。尊勝

寺範憲替。増智法印解文(裏書)〔水〕

定海(一二六—一二四二)

永久 四年 「五月廿三日被行僧事。次寺別當。醍

醐寺座主。權少僧都勝覚讓(裏書)〔水〕

權律師。六月廿一日任。讓醍醐寺勝覚僧

都。請雨經賞。「勝覚入室弟子。真言

宗。東大寺。故右府顯房息〔水〕

十二月十七日。最勝寺供養。散花。權

律師。東寺(裏書)

大治 四年 「五月廿一日補東大寺別當。最勝講〔水〕

權少僧都。正月十四日任。阿闍梨三人。

八月日賜。「十月廿五日法金剛院供養。

持金剛衆(裏書)〔水〕

六年 「醍醐座主。東大寺別當。二月二日蒙

夜居宣旨。五十八)

天承 二年 閏四月十三日補東寺長者。同十四日於

院勤行孔雀經御修法。

法印。同廿一日結願当座叙。元護持僧。

〔五十九〕。「二月廿八日法成寺御塔供

養。三月十三日得長寿院供養。引頭。

十月七日宝莊嚴院供養。唄(裏書)〔水〕

長承 二年 法印權大僧都。五月廿八日兼任。十月五

日復任東寺長者・護持僧。

三年

七月四日任法務。女院御発心地御祈孔雀經御読經賞。「東寺灌頂。大阿闍梨」

(水)

保延 元年

權僧正。十月廿八日転任。〔六十二〕。「東寺灌頂。大阿闍梨」(水)

二年

「東寺灌頂。大阿闍梨」(水)

三年

僧正。正月十四日転任。件僧正二月十一日停廢職云々。〔歳六十四〕。「東寺灌頂。大阿闍梨」(水)

四年

大僧正。十月十二日転任。〔六十五〕

永治 二年

〔大僧正。東寺長者。東大寺別当〕。〔法務。六十九〕

定懷(1001-1011)

承暦 四年

〔權〕律師。十一月日任。御導師勞。

永保 元年

卒。十二月十一日。

定覺(1011-1100)

永保 三年

堅者。〔年廿八。藤原永業子〕(裏書)

嘉保 二年

講師。法。興。〔四十〕

嘉承 二年

權律師。五月廿五日任。南已講勞。〔五

月廿三日。三会勞〕(水)

天永 二年

辭。

保延 六年

入滅。二月廿日。〔生年八十五〕

定覺(1100-1120)

元永 二年

東寺灌頂。阿闍梨。仁和寺。「小阿闍梨」(水)

三年

東寺灌頂。阿闍梨。「小阿闍梨」(水)

定觀(1090-1092)

延久 二年

法橋。五月九日叙。僧正行観辭職譲与之。

寛治 六年

卒。月日。

定基(1011-1033)

長和 四年

權律師。十二月廿五日任。天台宗。千手院。内供。散位源助成子。〔卅九〕。

〔十二月廿日任。四十一。智弁僧正弟子。園城寺〕(水)

五年

〔或本今年任〕(水)

寛仁 元年

律師。十二月廿五日転正。〔四十一〕

治安 元年

權少僧都。五月廿七日転任。〔四十五〕

長元 元年

權大僧都。十二月卅日転任。〔五十二〕。



〔五十四〕(水)

三年 「法成寺權別当」(抄)。「東北院供養賞。」

讓同法最円」(水)

四年 大僧都。十二月廿六日轉正。(五十五)

六年 「入滅。四月廿一日。五十七」。「十一日

卒。五十九」(水)

定喜(二八三-二八五)

寿永 二年 「法橋。寺。法成房。五十九。卅六」

(殘)

三年 「從信院。里。六十。卅七」(殘)

元曆 二年 「法橋」。六十一。卅八」(殘)

定惠(二八三-二八五)

寿永 二年 「法印大僧都。寺。鳥羽。宮。廿八。

三。十六」(殘)

三年 「法輪院宮。廿九。十七。兼」(殘)

元曆 二年 「權僧正。正月十三日任。卅。十八」

(殘)

定慶(二八四)

寿永 三年 「延曆寺住学生。上野。四十七。学頭

貞覺」(殘)

定賢(一〇九-一一〇)

承保 三年 法橋。十二月十九日叙。醍醐座主。(大

納言源隆国子)

承暦 三年 法眼。正月十四日叙。

永保 三年 權少僧都。正月十四日任。兼東寺長者。

応徳 三年 十一月廿一日任。法務。東寺塔供養賞。

寛治 三年 權大僧都。五月八日轉任。祈雨孔雀經法

賞。

永長 元年 法印權大僧都。十二月晦日叙。

康和 二年 入滅。七月六日。於醍醐房。被病已後第

三日。

定元(一〇九)

承暦 二年 賢者。(伯耆守源定成子)(裏書)

定源(一〇九-一〇五)

延久 元年 法橋。十二月廿六日叙。園城寺。陽明門

院護持僧勞。

二年 入滅。八月日。

定嚴(一一〇)

保延 六年 維摩会聴衆。東大寺六人ノ内(裏書)

定公(九六)

康保 元年 堅者。次。

定算(九三)

正曆 三年 堅者。興。(卅二)

定好(九三—一〇〇)

永觀 元年 堅者。(卅五。勅使右少弁惟成)

定秀(〇九七—一一〇)

長保 二年 講師。四月廿四日宣旨。法相宗。興福寺。(大和国人。五十二)。(廿六日宣。

永長 二年 法橋。四月廿六日叙。祇園行幸。依為別當。依年來勤公請勞相加。雖訴可任律師之由。不許之。

臘卅九。承俊威儀師子)(水)

長治 二年 (法橋)

定果(九七九—九八三)

天元 二年 「法橋。三月廿七日叙。行幸檢校賞。

定秀(一二三〇)

師主定助律師。去康保五年五月官府補

天永 元年 「阿闍梨宣旨。蓮台院尊義替。大僧正

檢校(裏書)(水)

大治 五年 解文(裏書)(水)

永觀 元年 「入滅。六月九日(裏書)(水)

定毫(一一八五)

元曆 二年 「法橋。同(五月廿七日)日叙。卅四。廿」

定助(九三—九三)

天曆 六年 權律師。十二月二日任。醍醐座主。御塔

(殘)

供養賞。真言宗。(六十五)

定豪(一〇七—一二六)

嘉承 二年 天台講師。山。「二会。十一月廿三日宣旨。年六十九。天台宗。延曆寺。已講

定助(一二七—一二四)

十年 律師。十二月廿八日軀正。

卒)(水)

嘉承 二年 「法橋)(水)

永久 四年 「十一月四日死。已講)(水)

永久 二年 「卒。月日)(水)

定昭(一照)(九二一九三)

天慶 四年 堅者。

応和 二年 講師。正月十一日宣。法相宗。興福寺。

(五十四)

康保 三年 權律師。十二月廿六日任。已講勞。(五十八)

定昭↓定昭  
定勝(二三)

安和 元年 律師。三月十一日転正。(六十)

大治 四年

天禄 元年 「東寺長者。九月三日興福寺別当」(水)

「十二月廿九日僧事。阿闍梨宣旨十三人。山七人ノ内。天慶寺僧都相命解文(裏書)」(水)

二年 月日拝興福寺別当。

天延 元年 權少僧都。十二月廿二日任。(六十五)。

定勝(二二一二五)

「六十六(定照)」(水)

貞元 二年 少僧都。六月十二日転正。東寺別当。(法務。六十九)。「或本五月卅日転」(水)

寿永 二年 「法眼。東大。小野。廿七。十七」(殘)  
元暦 二年 「法眼」。廿九。十九」(殘)

天元 二年 大僧都。十二月廿一日転任。(七十一)

定眞(九七)

四年 「興福寺別当。八月十四日辞。寺家司等」(水)

正暦 五年 「堅者。次」

定眞(〇四一二〇)

六年 入滅。三月廿一日。(七十五)(定照)。「往生人也。雖死屍焼尽可誦法華立誓。于今墓中有声誦云々。右手執五鈷。左手持法華。口唱真言。後誦藥王品。如入禪定久。或於此命終即往安樂世界文也。

康平 七年 堅者。(卅三。陸奥守藤頼宣子)  
永保 元年 講師。法相宗。興福寺。(五十)

寛治 六年 權律師。五月十六日補任。三會已講賞。  
康和 三年 正月十四日補法隆寺別当。  
四年 權少僧都。五月十三日任。

左京人也」(抄)。「七十六。治十二年。(裏書)天元四年八月廿一日辞寺務司等。是為夢想告遂往生之望也。(以下略)」(水)

嘉承 二年 (權) 大僧都。五月廿三日轉任。  
天永 元年 卒。十一月十二日。

定深 (1045-1133)

應德 二年 堅者。(四十。肥後守藤義綱子)(裏書)

天永 二年 法橋。三月日叙。春日行幸賞。依為興福寺上座也。(六十六)。「二月十二日叙。

母範永女(水)

元永 元年 十二月卅日被下阿闍梨宣旨(裏書)

保安 元年 卒。月日。「十一月廿二日卒。七十五」

(水)

定心房↓良源

定政 (1100)

天永 元年 堅者。(五十六)(裏書)

定清 (1031-1035)

長和 二年 法橋。三月廿日叙。八幡宮別当(裏書)

「十二月十五日叙。(裏書)或本閏十一月廿八日行幸。叙法橋(水)

廿八日行幸。叙法橋(水)

寬仁 元年 法眼。十月廿日叙。「三月八日叙。或本

十月廿日叙(水)

万寿 元年 「八月一日任八幡檢校(水)

長元 元年 法印。十一月日。衣清水行幸賞。

二年 法印。十一月日叙。行幸賞。「廿八日叙」

(水)

八年 「法印(水)

定誓 (1050-1055)

永承 五年 法橋。十二月卅日叙。天台宗。延曆寺。

依女院御經師被賞。主稅算師子。(五

十五)

天喜 二年 權律師。五月廿九日轉。(五十九)

三年 「入滅。六月廿七日。六十」

定暹 (1101-1133)

天永 元年 天台講師。寺。(六十四)。「二会。十月廿

日宣。天台宗(水)

永久 五年 九月廿一日(寬助)拜賀。前驅已講四人

ノ内(裏書)

保安 二年 權律師。十月六日任。北已講勞。歲七十

五。「二会三」。(裏書)超忠尋律師(水)

三年 八月日。僧正拜賀。前驅。車御前五人

ノ内(裏書)

卒。十二月七日。「生年七十六(水)

定滿(九四)

正曆 五年

「東寺阿闍梨。或説云。八月日被用置(裏書)」(水)

三年

興福寺別當。

五年

權大僧都。十月十六日。左大臣被參維摩会之次。被任。

定朝(三三〇四)

治安 二年

法橋。七月十六日叙。法成寺造仏賞。仏師僧綱始之。大仏師。「大仏師康成胤」(水)

長和 四年

「入滅。十二月二日。八十五」。「或云十一月一日卒。生年八十一。治十五年」(水)

万寿 元年

「或本今年叙法橋」(水)

定遍(二四一二六)

康治 元年

五月五日太上法皇並禪定殿下於東大寺御受戒。沙弥。右大将雅定息。実馬權守願定子云々(裏書)

定澄(九七〇五)

天元 二年

堅者。(四十五)

永延 二年

講師。元年十月廿五日宣旨。法相宗。興福寺。(五十四)。「臘卅七。壬生氏左京人(定隆)」(水)

長寛 二年

「權律師」(抄)

長徳 元年

權律師。十月七日任。已講勞。(寛空僧正弟子。六十五)。「十七日任。年六十一。臘四十四。空晴僧都弟子。右京人。定澄」(水)

定遍(二六二二六)

寿永 二年

「權僧正。仁。大納言。五十一。四十二」(殘)

三年

「東寺。九月廿六日為法務。五十二。四十三」(殘)

長保 二年

權少僧都。八月廿九日転任。興福寺。

元暦 二年

「僧正。正月十三日同日任。五十三。四十五」(殘)

「同仁興福寺別當」(水)

定峯(九三一九四)

延長 五年 堅者。興福寺。

天慶 三年 講師。去年十二月廿二日宣。法相宗。興

福寺。(五十八)

定祐(九六)

安和 二年 堅者。

定耀(一六四)

長寛 二年 「法眼」(抄)

定耀(二八三一二五)

寿永 二年 「法眼。仁。大将。五十八。四十七冬」

(残)

元暦 二年 「(法眼)。密。六十。四十八冬」(残)

定隆↓定澄

貞縁(一〇〇〇)

寛仁 四年 堅者。東。

貞覺(眞)↓(二八三一二五)

寿永 二年 「延暦寺学頭。已講。山。弁。安元元

年二会(眞覺)」(残)

元暦 二年 「二会。廿九」(残)

貞覺↓眞覺

貞義(二三)

大治 四年 堅者。(五十七)(裏書)

貞勝(九三一九三〇)

延長 元年 講師。去年十月廿六日宣。三論宗。東大

寺。(五十七)

八年 權律師。五月十四日任。已講勞。

入滅。同十六日。(六十四)

貞尋(一心)(一〇四一二)

永保 四年 權律師。正月十五日任。懷空讓。(備後

守藤良真子。四十八)

寛治 八年 (以後權ナシ)

嘉保 二年 權少僧都。十二月廿八日転任。

長治 元年 停止。七月日停止見任。宣旨被下了。上

卿左大臣。依山僧訴也。年来間上兵士

於山上。殺害人数百九十八人之。

前少僧都(以下、天永二年マデ、貞心)

永久 六年 卒。二月日。八十歳。「二月十四日前僧都

貞尋死去。八十二。件人先年有事追却

之。月不註補任(裏書)」(水)

貞崇(九三一九四)

承平 二年 權律師。九月十三日任。真言宗。東大寺。

御持僧勞。左京人。三善氏。

三年 十月廿日兼東寺別當。蓮丹替。

五年 律師。十月十二日転正。

天慶 元年 權少僧都。八月廿七日転任。

七年 入滅。七月廿三日。(七十九)。「重明親

王記云。延喜聖主不予。為御加持貞崇参仕於二間。有物語音。天皇以藏人令見無人。後令尋給之処。云。稻荷明神示天皇御葉今度大事之由云々」(抄)

貞禪(〇六二一〇九五)

康平 五年 堅者。(美乃守藤基貞子。廿一)

延久 三年 講師。五月十七日宣旨。法相宗。興福寺。

刑部卿基貞子。

永保 元年 權律師。十二月廿七日任。三会已講勞。

寛治 六年 權少僧都。五月十六日転任。

嘉保 二年 逝去。十二月日。

貞朝(〇〇四)

寛弘 元年 研学。東。三論宗。

貞敏(二六三一二八四)

寿永 二年 「三会。東大。弁。十七。安元二年(三

会)」(殘)

三年 「(三会。卅二。十八)」(殘)

貞譽(九四一九四)

天慶 三年 權律師。十二月十四日任。真言宗。東大

寺。貞觀寺座主。(七十一)。「美乃国人。

太田氏」

七年 入滅。七月八日。(七十五)

禎喜(二六四一二八三)

長寛 二年 「權少僧都。東長」(抄)

寿永 二年 「前大僧正。十一月一日申刻御入滅。侍

従。八十五。七十四。(禎□。『本朝高僧

伝』ニヨリ禎喜トス)

禎範(〇六九一〇九)

延久 元年 權律師。十二月廿六日任。園城寺。丹後

守俊平子。(五十九)

四年 權少僧都。十二月五日転任。

承保 三年 「(六十四)

永保 元年 (權)大僧都。十二月廿七日転任。

寬治 五年 入滅。八月十三日。

傳教大師↓最澄

卜

兜率僧都↓覺超

東陽和尚↓覺慶

等如(九〇七)

延喜 七年 堅者。次。

等定(七三十九)

延曆 二年

三年

十二年

十六年

十八年

辭表。十二月日。

入滅。月日。「或本云。七月入滅。元東國渡守云々。去年辭職歟。年八十餘」(七)

董慶↓芳慶

道意(一八三一二八五)

壽永 二年

元曆 二年

道觀(五十七〇)

天平勝宝

三年

律師。四月廿二日任。大唐大福先寺僧和尚弟子也。来朝宿住大安寺西唐院。即行表和尚之師主也。「(生年五十)」

七年

「或本今年退」(七)

天平宝字

四年

入滅。閏四月十八日。「(生年五十九。唐人)(裏書)俗姓衛氏。靈公之後。大唐許州人也。河有濟福先寺僧。延仙和尚弟子也。来朝宿住大安寺西塔院。即行表和尚之師主也。天台最澄大師。是行表之弟子也。朝參鳳闕。夕懸龍宮。後辭職。入芳現光寺。安祥孤棲味遂喰。俗人夢說。律師乘六牙白象。著白衣東而去云々。

道圓(二六四)

長寬 二年

「權少僧都」(抄)

道覺(二三四二四三)

長承 三年

最勝寺灌頂。園城寺。乘覺死闕替。「小阿闍梨」(水)



四年

尊勝寺灌頂。九月十九日宣旨。「小阿闍梨」(水)

保延 三年

權律師。五月廿一日任。天台灌頂勞。□

□藤基長息。「五月廿七日任。隆命大僧正入室。前中納言藤基長男。母刑部卿基貞女」(水)

永治 二年

(權律師)

道義(九〇四—九〇六)

延喜 四年

權律師。二月廿九日任。東大寺。

六年

入滅。月日。

道鏡(七〇三—七二七)

大宝 三年

義淵一室弟子。(道昭。道場。道慈共)

(裏書)

天平 七年

少僧都。九月四日任。法相宗。東大寺。

河内国弓削氏。不經律師。

(裏書)天智天皇之孫。志基親王第六子

也。義淵僧正弟子。初籠寫木山。修如

意輪法。苦行無極。高野姬天皇臥養於

近江保良宮。有御藥。仍召道鏡。被修

密曜秘法依有驗。被授大臣。乃至太政

大臣法皇位云々。

八年

大臣禪師。九月十二日改為。

天平 神護

元年

太政大臣禪師。閏十月一日改為。

二年

法王。十月廿三日授。更行大嘗會。

寶龜 三年

入滅。四年己巳。下野藥師寺別當。於配

所入滅。

道鏡(九七)

貞元 二年

堅者。次。

道顯(七二〇)

和銅 三年

入唐學問僧。始持來甘子。

道顯(二八三—二八五)

壽永 二年

「律師。寺。中納言。四十九。廿八。

園城寺學頭。權律師」(殘)

元曆 二年

「少僧都。正月十三日。兼。五十一。

四十。權少僧都」(殘)

道讚(一〇〇一—一〇三三)

寬弘 七年

研學。興。(廿六)

万壽 二年

講師。六月廿一日宣旨。法相宗。興福寺。

(四十一)。「六月十一日宣旨」(水)

長元 八年

權律師。十二月廿六日任。已講勞。伊勢

守藤孝忠子。〔五十一。定澄僧都入室〕。

〔年五十二。大僧都定昭入室弟子。教

円座主舎弟〕〔水〕

永承 四年

権少僧都。十一月廿七日転任。春日行幸

賞。依寺家権別当。〔六十五〕

七年

〔入滅。四月廿三日。六十〕

道慈〔〇三二七四〕

大宝 三年

義淵一室弟子。〔道昭。道場。道鏡共〕

〔裏書〕

天平 元年

律師。十月七日。三論宗。大安寺。大和

国添下郡人。額田氏。大宝元年入唐。

養老二年帰朝。

十六年

入滅。十月辛未日。七十余。日本名伝云

冬十月辛卯云々。

道周〔〇三二〇六五〕

長元 元年

堅者。興。〔五十一。勅使右大弁重尹〕

治暦 元年

講師。法相宗。興福寺。長者左大臣教通

宣。但宣旨後辞退了。仍九月二日改請

維懷了。

道俊〔二八三二二五〕

寿永 二年 「法眼。寺。大納言。卅。十八〔残〕

元暦 二年 「〔法眼〕。密。卅二。廿〔残〕

道昌↓道唱

道昭〔一服〕〔六六七三〕

文武 二年 大僧都。十一月十五日任。薬師寺繡仏開

天皇 眼講師〔道服〕。〔賞。大僧都始〕〔抄〕

大宝 三年

義淵一室弟子〔道場。道慈。道鏡共〕〔裏書〕

道昭〔元咒〕

天曆 三年

堅者。興福寺。

道昭〔〇四四〕

寛徳 二年 堅者。〔五十三〕

道昭↓道照

道唱〔一昌〕〔六六七五〕

天安 二年

講師。三論宗。元興寺。讃岐国人。秦氏。

貞観 六年

権律師。二月廿八日任。依□導師勞。追

被任也〔讃岐国香川人。六十七〕〔以下

道昌〕

十六年

少僧都。十二月廿一日任。依御導師勞。

御仏名結願之次。〔七十七〕。

十七年 入滅。三月九日。〔七十八〕

道照（一〇三—一〇〇）

天文 四年  
天皇 武 四年

和尚月日入滅。火葬以之為本。〔三月入滅。年七十二。件道昭孝德天皇白雉四年入唐。謁玄奘三藏。学法相宗帰朝。元興寺住僧云々〕（七）

道詮（一〇六—一〇七）

長元 七年 堅者。葉師寺。法相宗。  
天喜 四年 講師。八月十五日宣。〔四十二〕  
延久 元年 權律師。十二月廿六日任。已講勞。  
二年 辭退。正月日。  
嘉保 元年 （前律師）

道證（一二三—一二五）

寿永 二年

〔權僧正。寺。真如院。七十。六十〕（殘）

元曆 二年

〔權僧正。長吏。正月十日。七十二〕（殘）

道場（七〇）

大宝 三年

義淵一室弟子（道昭。道慈。道鏡共）（裏書）

道仁（一二三—一二四）

寿永 二年

〔前少僧都。寺。五十五〕（殘）

三年

〔前少僧都。弁。五十六〕（殘）

道清（一二三—一二五）

寿永 二年

〔法眼。八幡。小別当。慶清子〕（殘）

元曆 二年

〔法眼。檢校。十一月十九日〕（殘）

道靜（一〇三—一〇四）

十五年

入滅。三月二日。

（元慶元年裏書）道詮。武蔵国人。住大和国平群郡福貴山寺。修虚空藏求聞持法。得自然智。十二年之間。学一切經論。貞觀六年二月十六日僧綱召會議間。依講師勞。可任僧綱也。而先以己分僧綱。申讓弟子長賢已講之後。臨維摩會。令參弟子長賢律師。即至初日。依暮談議。道詮已講步行參會。為聞立義。在非聴衆床。爰探題驚咎勅使請補問者。自今以後朝奏聞。仍追被任僧綱也。而

国史云。件貞觀六年十六日已任道詮律師。

十八年

師了。同十一年正月廿七日長賢任律師者。又同補任之中如此者。可尋歟云々。  
「入滅。□參維摩會。於非聽衆床講問之談皆弁決。勅使感之奏聞。即被補律師。行求貴道詮是也。武蔵国人也」(抄)

道服↓道昭

道祐(二三)

保安 四年

天台講師。阿闍梨。「二會。十二月十三日宣。天台宗。延曆寺」(水)

道祐(二三)

天治 二年

「明源不經最勝一会。為瘡瘡逝去畢。仍最勝會五箇日之間以五人講師勤之。五人ノ内(裏書)」(水)

道雄(四八五)

承和十四年

律師。十二月二日任。真言宗。花嚴宗。海印寺根本。

(十年裏書)從理勝和尚。学唯識論。次從長歲和尚学花嚴及因明等。後從空海和尚。受真言。

嘉祥 三年

(權)少僧都。十二月日任。

仁寿 元年 入滅。六月八日。

道譽(一〇三〇)

長元 三年 堅者。法相。

得勢(八三)

承和 十年 講師。三論宗。大安寺。(長者大納言良

房宣)

德積(數部)(六二四)

推古卅二年 僧都。四月壬戌任。未分大少。「高麗国

人也」(抄)

ナ

南山房僧都↓遍敷

南勝房座主↓仁豪

南祚(九三)

延長 三年 堅者。次。

二

日觀(九三—一〇一三)

長德 元年 堅者。(四十三)

長和 元年 講師。去年十二月廿五日宣旨。法相宗。

興福寺。〔六十。伊勢国人〕。〔年六十

四。御導師。義光律師資〕〔水〕

日憲〔二〇七五〕

承保 二年 堅者。〔廿三。尾張守藤憲房子〕〔裏書〕

日讚〔九一四〕

延喜十四年 堅者。

日大聖和上↓鑒眞

入尊〔二〇四〇〕

長久 元年 堅者。〔六十一〕

任覺〔二六四〕

長寛 二年 〔法印権大僧都〕〔抄〕

任覺↓仁覺

任繼〔二八三一二八五〕

寿永 二年 〔東寺灌頂。仁。大夫。上了。承安二

〔年東寺灌頂〕。六十一。四十九〔マ、〕〔殘〕

三年 〔浄印房。六十二。四十七〕〔殘〕

元暦 二年 〔東寺灌頂〕。六十三。四十八。上了。

〔抹消符号アリ〕〔殘〕

任清〔二七二四〕

永久 五年

〔法橋。八月廿九日叙。八幡行幸賞。光清讓之。年十一。〔裏書〕六月廿九日官府以任清石清水修理別当。十二才云々。光清之弟子。嚴清転別当替〕〔水〕

〔法眼。二月廿日叙。八幡行幸賞。光清讓之〕〔水〕

元永 三年

〔清讓之〕〔水〕

天治 二年

〔十月九日行幸賞。以光清讓別当於任清。即光清入室弟子〕〔水〕

天承 元年

法眼。八幡別当〔裏書〕

長承 三年

法印。五月十日転叙。行幸賞〔裏書〕。〔五月十九日叙〕〔水〕

保延 六年

〔五月廿七日蒙座宣旨。行幸賞〕〔裏書〕

七年

任惣〔二八四一二八五〕

寿永 三年

〔威儀師。仁。相觀房。正月十四任。未役〕〔殘〕

元暦 二年

〔威儀師〕。卅一〔殘〕

任遍〔二八三一二八五〕

寿永 二年

〔律師。仁。大夫。四十。卅春〔マ、〕〔殘〕

元暦 二年

〔律師〕。四十二。卅一春〔マ、〕〔殘〕

任耀(二八三—二八五)

壽永 二年 「法橋。仁。尾張。卅八。廿二」(殘)

元曆 二年 「(法橋)。里。四十。廿四。十七出」(殘)

木

念圓(二〇九—二〇三)

承曆 三年 權律師。正月十四日任。御修法勞。(六十六)

永保 三年 卒。十二月六日。

念緣(二〇四—二〇五)

長元 七年 權律師。十一月十七日任。真言宗。東大寺。円教寺供養日。以別当延尋自賞讓

与也。播磨守源相方子。(五十一)。「前大僧正濟信入室。長和五年補東寺入寺僧」(水)

寬德 二年 入滅。五月廿七日。(六十二)

念覺(二〇二—二〇四)

治安 元年 權律師。五月廿七日任。天台宗。千手院。大納言藤濟時息。松崎。「教靜僧都入

室」。「永觀元年十二月五日得度受戒。

余慶權僧正弟子」(水)

長元 元年 律師。十二月卅日転正。(六十二)

二年 權少僧都。六月廿六日転任。(六十三)

長元 三年 「入滅。六月一日。六十四」

念範(二二三)

保延 四年

五月廿九日阿闍梨八人宣旨ノ内。喜多院。御室挙(裏書)。「五月卅日被行僧事。阿闍梨宣旨(裏書)」(水)

念滿(元九)

長保 元年 「(堅者)」

能圓(二八三—二八四)

壽永 二年 「法眼。山。七勝寺執行。四十四。廿九」(殘)

「(法眼)。里。中納言。四十五。卅」(殘)

能覺(二六四)

長寬 二年 「法眼」(抄)

能慶(二六四)

長寛 二年

「法眼」抄

能慶(二八三―二八五)

寿永 二年

「法印大僧都。寺。左大臣。五十七。四十七」(残)

元暦 二年

「法印大僧都」。兼。密。五十九。四十  
九」(残)

能算(二〇七)

承暦 三年

大威儀。七月十六日。蒙賜宣旨。興福寺  
僧綱已講等。中宮御座參賀日也(裏書)

能聖(九七)

貞元 二年

豎者。

能智(二六四)

長寛 二年

「法眼」抄

能珍(二八三―二八五)

寿永 二年

「園城寺住学生。少将阿。四十七。学  
頭慶智」(残)

元暦 二年

「住学生」。四十八」(残)

能範(二〇八)

寛治 元年

豎者。四十四。前越後守橘通成子。智覚

辞退替(裏書)

能遍(二八三―二八五)

寿永 二年

「東寺灌頂。寿永二年十二月廿八日。  
東寺始。観音院。依前大僧正御入□寿」  
辞退了」(残)

元暦 二年

「少将。仁」(残)

八

梅桃惡法眼↓澄眞

飯室權僧正↓尋圓

飯室座主↓尋禪

範胤(二〇六―二〇八)

嘉承 元年

二年

尊勝寺灌頂。阿闍梨。延暦寺。  
尊勝寺灌頂。

權律師。五月廿三日任。蓮台寺阿闍梨。

「天台宗。延暦寺灌頂」(水)

「八十」

天永 四年

永久 四年

卒。四月廿四日。「八十三」(水)